

【岐阜女子大学】メタデータ項目と記述内容

	メタデータ項目	メタデータ記述欄
1	ID	
2	表題名	沖縄のサトウキビ
3	資料名	ウージ染め
4	内容分類	郷土・歴史
5	索引語	沖縄、生活文化、サトウキビ、ウージ染め、工芸
6	説明	<p>ウージ染めとは、サトウキビを利用した染め物、織物のこと。「うーじ」とは、沖縄の方言でサトウキビを指す。</p> <p>染色にはサトウキビの葉と穂の部分を用い、刈り取ったサトウキビの葉を細かく切り、2~3時間かけて煮出し、こす作業を2回繰り返して染液を取り出す。その後の染め方には2通りの方法があり、先に糸を染めた後に織り上げる「先染め」と、布を絞り等で後から染めていく「後染め」がある。</p> <p>染液につける時間や、葉を刈り取る季節によっても少しずつ色が変化し、若草色や萌葱色などのグリーン系から、黄金色などの落ち着いたイエロー系など、葉の青々とした夏の時期には黄色が強くなり冬には渋みがかった色に染まるほか、12月中旬から2月頃にかけて咲くさとうきびの花を使った、「花穂染め」と言われるピンク色のウージ染めもあり、様々な色を楽しむことができる。</p>
7	形式	静止画(jpg)
8	氏名	撮影者：宮田璃音
9	時代・年	撮影日：2025/02/09
10	地域・場所	沖縄県島尻郡西原町
11	利用条件	表示 4.0 国際(CC BY 4.0)
12	関連資料	
13	権利者	岐阜女子大学
14	協力者	なし
15	登録日	2025/02/15
16	登録者	宮田璃音
17	ファクトデータ	circd0887-0017.jpg

18	サムネイル		
19	公開の可否	<p>①ウージ染めの手法</p> <p>一口にウージ染めといえど、その染め方には地域や工房によって様々である。一例として、豊見城市ウージ染め協同組合のWEBサイトに記載のウージ染めを紹介する。</p> <p>・先染めの方法</p> <p>最初に、糸を浸し、糸繰り（糸を引き出して紡ぐこと）をしながら煮染めをしたあと、のりづけした糸を木枠に巻く糸巻きをおこなう。つぎに、デザインした縦糸を電動整経機で巻き取る整経をし、最後に、染めた糸を織り機に掛けて織り上げれば完成。</p> <p>・剛毛染め（後染め）の方法</p> <p>最初に、用意した布を染液に浸し、布を染めたあと、模様付けをおこなう。つぎに、乾いた布に5~6回程、糊で伏せて、柄の部分を出していく。20~30分ほど蒸し器にかけ、最後に、水洗いをして仕上げる。</p> <p>・浸し染め（後染め）の方法</p> <p>最初に、白地の布を染液に浸し、煮詰めたあと、媒染液につけ色味を定着させる。つぎに、同じ作業をもう一度繰り返し、水洗いをして媒染液を落とす。最後に仕上げをおこない完成。</p>	
20	*特色	<p>引用：ウージ染めとは 豊見城市ウージ染め協同組合 URL: https://www.u-jizome.jp/?page_id=74 閲覧日：2025/8/9</p> <p>②エコロジーなウージ染め</p> <p>上記のウージ染めの手法には、黒糖等製造後の葉や搾りかす（バガス）といった天然素材だけで染め上げられ化学薬品がほぼ使用されていない。持続可能な価値観が息づいている。</p>	

		また、この地域資源の循環により、沖縄のサトウキビ産業と連携し、地元の文化と経済を支えている。
21	*活用支援	
22	*利用分野	教育、生涯学習、地域学習、観光
23	*改善結果	
24	*処理プロセス	
25	期間外リンク情報	
26	目標	
27	紹介	